

キリ造林木の間伐材を利用した 小木工品の製作

真室川営林署 大沢森林事務所 ○ 高橋 廣明
杓沢 正一

1. はじめに

真室川営林署管内には現在キリ造林地が4団地ほどあります。このキリ造林地は昭和62年の種苗事業所の廃止に係わって、昭和63年度から平成2年度にかけて植栽されたもので、現在7～9年生に育っています。

これらのキリ造林地は、肥培管理による集約的な取扱いをしてきたこともあって成長が早く、このため、樹冠が過密化している状況にあったので、このうちの1団地について、今年度（平成8年度）の春に間伐を実施しました。

また、今年度から定期作業員の雇用期間が延長され、雇用期間延長中に、このキリ間伐材を利用した小木工品の製作に取り組んだので、その取組みについて併せて紹介します。

2. 真室川営林署管内のキリ造林地の現状等

(1) キリ造林地の育成・管理の経緯

当署にはかつて種苗事業所がありましたが、キリ造林地はこの種苗事業所の廃止（昭和62年1月1日廃止）に伴い設定されました。従って、キリ造林地の植栽から育成・管理に当たっては、旧種苗事業所に勤務していた女性定期作業員がこれに従事してきました。

平成8年度には、8名の女性定期作業員が、造成された4団地のキリ造林地の管理に当たりました。

(2) キリ造林地の概要

表一は当署管内のキリ造林地の概要を示したものです。

キリ造林地の植栽は種苗事業所の廃止後の昭和63年度に始まり、平成2年度までの3年間で4団地、合計8.95haのキリ造林地が造成されました。

ヘクタール当たりの植栽本数は林小班により大きく異なり、少ないもので276本、多いもので374本とまちまちになっています。

なお、この表のうち一番最初に植栽された昭和63年植栽の15c林小班について間伐を実施しましたが、この表には間伐実施前の状況を載せています。

表一 真室川営林署管内のキリ造林地の概要

林小班名	植栽年度	植栽面積	植栽本数	ha当たり本数	備考
15c	S63	4.19ha	1,340本	320本/ha	間伐実施林分の間伐前の林況
69c	H元	1.27ha	350本	276本/ha	
70s	H元	1.31ha	490本	374本/ha	
5s	H2	2.18ha	750本	344本/ha	

3. 間伐の実施

(1) 間伐実施前のキリ造林地の林況

キリ造林地は植栽から7～9年経過しており、これまで肥培管理による集約的な取扱いをしてきたこともあって、成長が早く、このため、樹冠が過密化し、隣接木の樹冠が互いに接触し下枝が枯れ上がる、また、風通しが悪くなることにより幹にカビが発生し変色するなど、今後の生育にとって好ましくない状況が見られるようになっていました。

このような状況は、間伐を実施した15㍍林小班に限らず、他の3団地についても、程度の差はあるものの、同様にみられるようになっていました。そこで、とりあえず4団地の中で一番最初に植栽された15㍍林小班について、間伐を実行することとしました。

写真-1 間伐実施前のキリ造林地の林況



(2) 間伐の実施

間伐を実施した15㍍林小班は図-1のとおり昭和63年植栽で、面積は4.19ha、間伐前の本数は1,340本、ヘクタール当たりの本数は320本、また、樹高は7～8m、胸高直径は20cm前後となっていました。

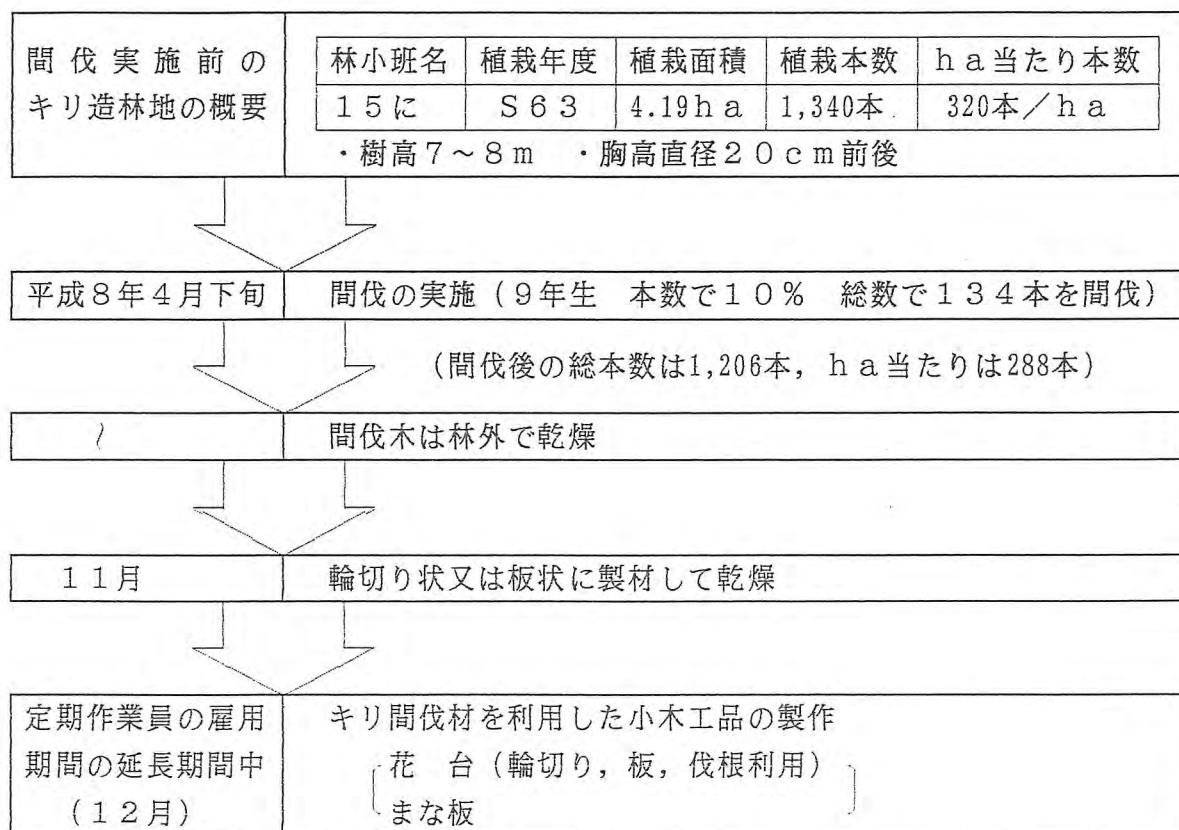
間伐木の選木は、初めてであったこともあり、幹にカビが発生しているものや、枝が枯れ上がってきているもの、また被圧木などを中心に慎重に選木した結果、本数で10%程度、134本の間伐に止まりましたが、主伐までの間伐回数が2回、主伐時である20年生での成立本数が200本前後とされていることを考えると、もっと思い切った20%前後の間伐が必要ではなかったかと反省しているところです。

また、一般的にキリの伐採は樹液の流動が止まる秋の彼岸から春の彼岸までの間に行うのが好ましいとされていますが、実際にキリの間伐を実施したのは昨年(平成8年)の4月下旬で、春の彼岸を過ぎていました。

なお、間伐木の伐採は、大沢森林事務所所属の基幹作業員の手により実行されましたが、間伐木の枝条整理は女性定期作業員の手で行われました。

このようにして間伐された間伐木は、林内に放置しておくとも虫の発生の原因にもなるので、これを1.5m程度に玉切りし、林外に搬出し、その一部を乾燥することとしました。

図一 1 間伐実施から小木工品製作までの流れ



4. 小木工品の製作

ところで、今年度から定期作業員の雇用期間が延長され、雇用期間延長中は屋内作業に従事することになりましたが、その作業種として小木工品と路肩ポールを製作することになりました。このことについて、森林事務所内で話し合った結果、同じ小木工品を製作するのであれば、せっかくキリの間伐を実施したのだから、この間伐材を利用してはどうかというアイデアが出され、キリ間伐材を利用した小木工品を製作することになりました。

これを踏まえ、11月に入ってから、林外で乾燥していた間伐木を輪切り又は板状に製材し、12月からの小木工品の製作に備え、森林事務所内で更に乾燥を加えました。

小木工品の製作には基幹作業職員の男性1名にも加わってもらい、男性がカンナやサンダーによる研磨を、そこから先の細かい磨きは女性定期作業員がサンドペーパーで行いました。研磨での問題点は、輪切りの場合カンナが使えない、効かないということでした。

研磨の後は塗装になりますが、塗装で問題となったのは、輪切りの場合だとキリは年輪幅が広くかつ材質が柔らかいため、塗料がどんどん染み込んでしまい、塗装を4～5回程度行わなければならない、手間が掛かるということでした（板状のものの場合だと2回程度の塗装で済んだ。）。

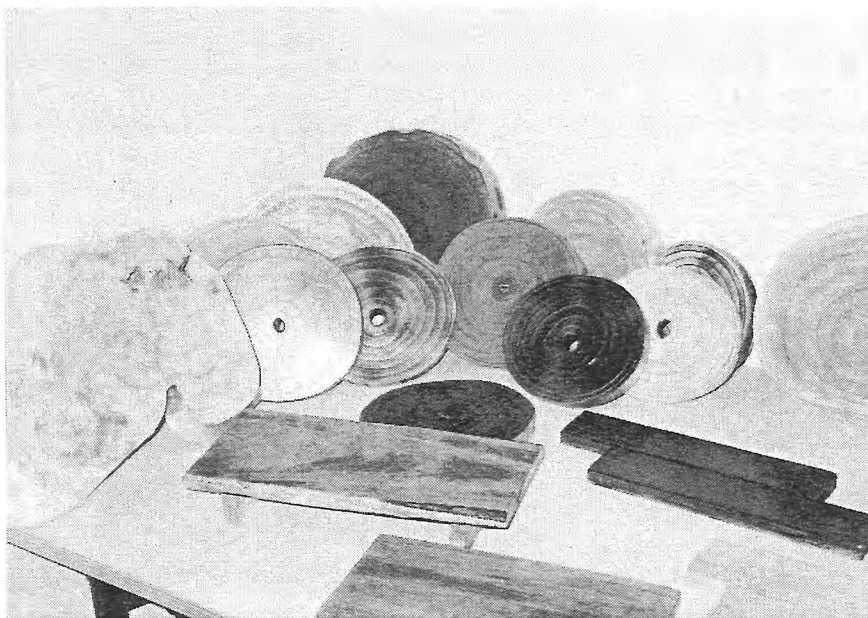
雇用期間延長中の作業期間は実質5日間だけでしたが、結果として形の異なる様々な種

類の花台やまな板などを製作することができました。

写真-2 小木工品の製作光景



写真-3 製作された小木工品の数々



5. 今後の課題

表-2は、キリの間伐とその間伐材を利用した小木工品の製作を手がけてみて感じたことをまとめたものです。

まず、間伐関係での今後の課題は、キリの場合、主伐時である20年生の成立本数がヘクタール当たり200本前後とされているので、今後、林分の状況を見つつ、更に30%程度の間伐の実施を検討する必要があるということです。また、間伐未実施の残り3団地

についても、今後の対応を検討しなければならないと考えているところです。

また、小木工品の製作関係では、上記4.でも触れたように輪切りの場合の塗装回数をどのようにしたら短縮できるか、また、花台、まな板だけでなくこれら以外にも小木工品の種類を広げられないのか、さらに、キリ材以外でも例えば日常の除伐作業中に見つけたケヤキ、エンジュ、クワの木などを持ち帰りこれらを小木工品の材料のレパトリーに加えられるのか、などが今後の課題になると考えているところです。

また、販売はこれからになるわけですが、地元の真室川梅まつりや、もがみ大産業祭などの各種イベントを積極的に利用して売り込んでいかなければならないと考えているところです。

表一2 今後の課題

間伐関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主伐時である20年生の成立本数がヘクタール当たり200本前後とされていることから、今後林分の状況を見つつ、本数で更に30%程度の間伐の検討。 ○ 間伐未実施の残り3団地の間伐の検討。
小木工品製作関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ キリ材を輪切りにした場合、年輪幅が広く柔らかいため塗料が染み込んでしまい、何度も塗装しなければならないという問題点がある。これをどのように解決するか。 ○ キリ材を利用した小木工品の種類の拡大。 ○ キリ材の小木工品の製作の経験を生かしたキリ材以外の材料を使用した小木工品の製作。 ○ 各種イベントでの販売

6. おわりに

今回のキリ間伐材を利用した小木工品の製作により、当署管内のキリ造林木が、これを植栽した女性定期作業員の手によって、植栽後初めて利用されることになったこと、また、自分たちが愛情を込めて育てたキリ造林木を自分たちの手で花台などの小木工品に加工できるとあって、作業に従事した女性定期作業員も色々なアイデアを出し合うなど、和気あいあいと作業に取り組むことができたことを最後に報告しておきます。